

## 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群公開講座

### 第5回「カミマツリと沖ノ島」

ヤマト王権の時代に行われていた祭祀「カミマツリ」。沖ノ島で行われていたカミマツリは、どのようなものだったのでしょうか。また、そのカミマツリに王権はどのように関わっていたのでしょうか。奉獻された勾玉をはじめとする石製品などの出土品の分析、また文献史料の詳細な分析から考えます。

日 時：令和元年 10月 26 日（土） 13:30-16:30

場 所：海の道むなかた館 講義室

スケジュール：

13:30 開会あいさつ

13:40 講演1「石材から見る沖ノ島の石製祭具」

篠原 祐一 氏

栃木県埋蔵文化財センター調査課長、延喜式内大前神社禰宜。

15:00 休憩(15分)

15:15 講演2「文献からみた古代王権・国家のカミマツリと神への捧げ物」

西宮 秀紀 氏

愛知教育大学名誉教授。

16:30 閉会



# 石材から見る 宗像沖ノ島の石製祭具

栃木県埋蔵文化財センター  
篠原祐一

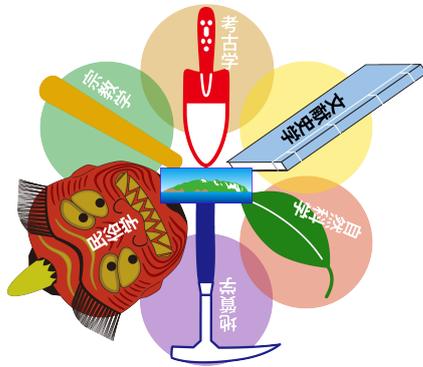
1

## 目次

- 1 物証史学と祭祀
- 2 祭祀とは
- 3 石の祭具の意味
- 4 石を識る-産地と編年-
- 5 宗像沖ノ島の石製品の概要
- 6 沖ノ島の石製品はどこから来たか
- 7 韓国竹幕洞遺跡との対比
- 8 石製品の分析が語ること
- 9 石製祭具からの発展

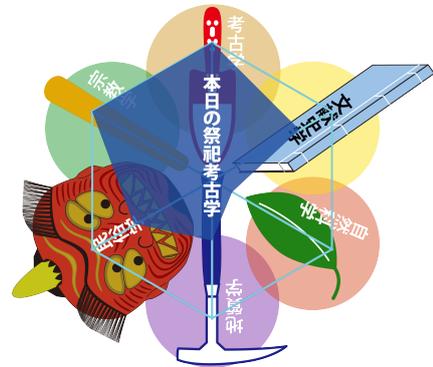
2

### 1 物証史学と祭祀



3

### 1 物証史学と祭祀



4

### 1 物証史学と祭祀

#### 考古学とは物証史学

遺構 地面などの不動産に残る人の活動痕跡の単位

遺跡 複数の遺構から構成される活動痕跡のまとまり。

遺物 地中より出土した人が作った道具など

物証史学は状況証拠から、もっとも合理性のある推論をたてる学問。モノを語る範囲を超えてはならないとの指摘もある。祭祀考古学は物証史学を基礎に信仰と精神を復原する歴史学。

5

### 2 祭祀とは

#### 「祭」

神や祖先を物を供えてまつこと。甲骨文は血のしたたる生け贄を肉を手で捧げる象形。血の肉を示げる行為が「祭」。中国の祠令などでは地祇をまつる文字。〈『広漢和辞典』〉



6

2 祭祀とは

「祀」

神として長くまつる意味をもち、天神に対して用いる語。「示」は神に生け贄を捧げる台の象形文字。「巳」は神としてのへびの象形文字。(『広漢和辞典』)



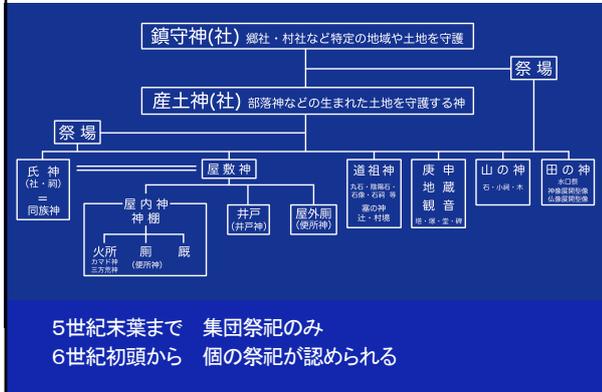
7

2 祭祀とは

- サイシ 「信仰の対象たる神、若しくは靈魂と人との交渉の事實を具體的に表現する儀禮」で「祭祀を行ふ人と、祭祀の対象たる神とが、合一の境地に達すること、並に神を請饗すること及び公的に執行することを必須の要件」とし、「祈願」「報賽」「慰靈」「咒術」「卜占」を目的とする。
- マツリ 「神を祭ること、又は神祭の儀式を稱する語」「神を仰ぎ尊んで、誠敬を以て仕へ奉り、儀式を正し、神供を獻り、音楽を奏しなどして、神靈を慰め和す」  
(下中彌三郎編『神道大辞典』昭和12年)

8

2 祭祀とは



9

2 祭祀とは

神社神道の祭式・作法

『三國志』『魏書』卷三〇「東夷傳」倭人  
大人の敬する所を見れば、但と手を搏ち以て跪拝に當つ」「辭を傳え事を説くには、或は蹲り或は跪き、兩手は地に據り、之が恭敬を爲す

座礼→起拝・居拝(座拝)

五 起拝 右膝ヨリ立ち左足ヲ進メ兩足ヲ踏ミ整ヘテ體ヲ正シ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ左膝ヲ伏セ尋キテ右膝ヲ伏セテ俛伏スルヲイフ」、居拝を「六 居拝 座シタルマヽ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ正座シテ俛伏スルヲイフ」(官報第七千九十九號「官報。1907年06月29日」)

10

2 祭祀とは

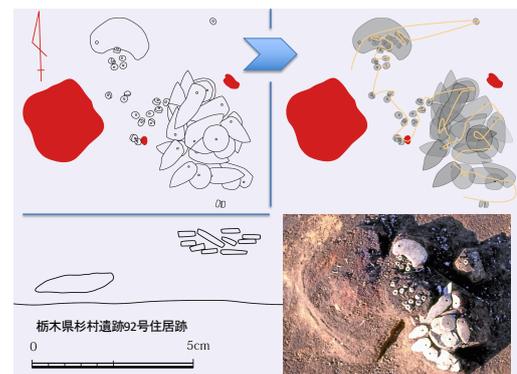
神籬



天香山の五百箇の眞坂樹を掘して、上枝には八坂瓊の五百箇の御統を懸け、中枝には八咫鏡を懸け、下枝には青和幣、白和幣を懸て、相與に致其祈禱す。

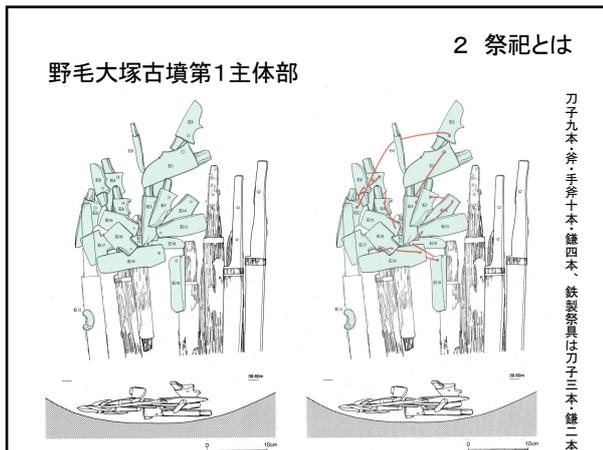
11

2 祭祀とは



紐で連鎖してあった可能性

12



13

3 石の祭具の意味

- 玉は、本来、神仙世界に存するもの
- 緯書「崑崙山の墟、五城十二楼あり。河水出づ。四維玉多し」「崑崙の墟の北に玉樹あり」
- 緯書「太華の山上、明星玉女あり。玉漿を持すを司どる。玉漿を服せば神仙たり」「此の山に白玉あり。得て之を服せば、則ち仙道を得る。世の人上がること能はず」
- 玉漿(玉液)・玉膏は仙人の食や不老不死の薬

14

3 石の祭具の意味

- 元来、神仙界に有るはずのが、稀に人間界に現れた神秘性・稀少性を尊び、神仙界に存在するものを身に纏うことは皇帝や諸侯王の地位や力を象徴し、不死や辟邪をかなえる護符的な宝器を作ることが目的。
- 『周礼』「玉を以てとし、以て天地四方を礼す。蒼璧を以て天を礼し、黄琮を以て地を礼し」  
以玉作六器。以禮天地四方。以蒼璧禮天。以黃琮禮地。以青圭禮東方。以赤璋禮南方。以白琥禮西方。以玄璜禮北方。(周禮)「春官大宗伯」

↓

神霊を祀るに青・緑を用いるのに理論的な影響  
玉と魂の同化

15

3 石の祭具の意味

『史記』に見る神仙思想

- 天体 上帝(天帝・五帝)・日月・南北斗星
- 始祖 伏羲・女媧・神農(炎帝)・軒轅(黄帝)
- 司命 西王母・神君・鬼神
- 自然・五行 天主・地主・四瀆・五嶽
- 仙人 老子・王子喬・赤松子・安期生

16

3 石の祭具の意味

「実具を玉化する」のはじまり

奈良県柳本遺跡  
細粒緑色凝灰岩の破片が布留Ⅰ式(180~210年)の土器と共伴

奈良県上之庄遺跡  
細粒緑色凝灰岩と滑石片岩の剥片や滑石片岩製車輪石が布留Ⅱ式(210~250)を伴い出土

17

3 石の祭具の意味

○奈良県メスリ山古墳(4世紀前葉)

主室 車輪石5・石釧41・鍬形石3(内1点滑石製)・楡形石製品2・石製合子5(滑石製含)・椅子形石製品3  
副室 玉杖・紡錘車形石製品2・管玉状石製品20・鍬形石製品57

緑色系の滑石材使用

滑石系石材を用いた最も早い例のひとつ

18

### 3 石の祭具の意味

玉の産出地（神仙世界境界）の商標（brand）化  
 ↓  
 細粒緑色凝灰岩の周辺域石材の神聖化  
 ↓  
 緑色系滑石片岩採用（メスリ山古墳）  
 ↓  
 滑石の加工性ではなく産地の珍重性  
 ↓  
 緑色系硬質石材と滑石系石材の同等化（初現期）  
 ↓  
 分類と編年 生産・流通・消費＝社会構造

19

### 4 石を識る-産地と編年-

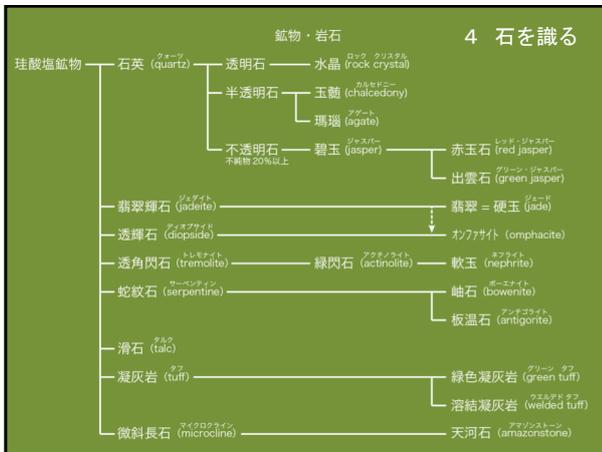
#### 玉の産地はどこか

理化学分析援用による産地同定  
 産地→製作地→消費地の有機的関係を明確化

滑石系石材蛍光X線分析  
 平成2年～5年 大阪府池島遺跡  
 平成6年 京都府下植野南遺跡・桑飼上遺跡  
 碧玉系石材蛍光X線分析  
 平成17年 紫金山古墳  
 平成17年 鳥取県南原千軒遺跡

加賀系石材+豊岡系（養父・八鹿）石材の可能性

20



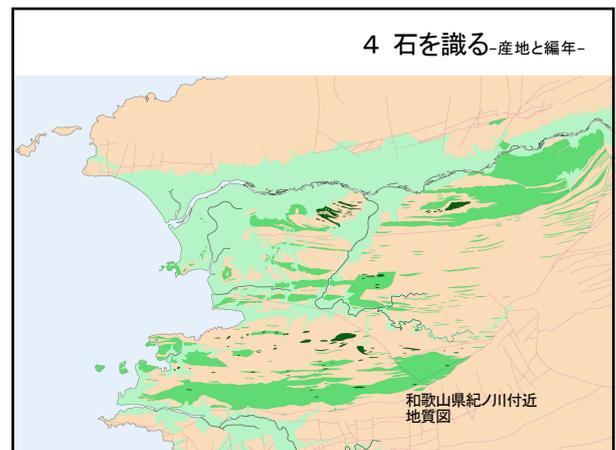
21



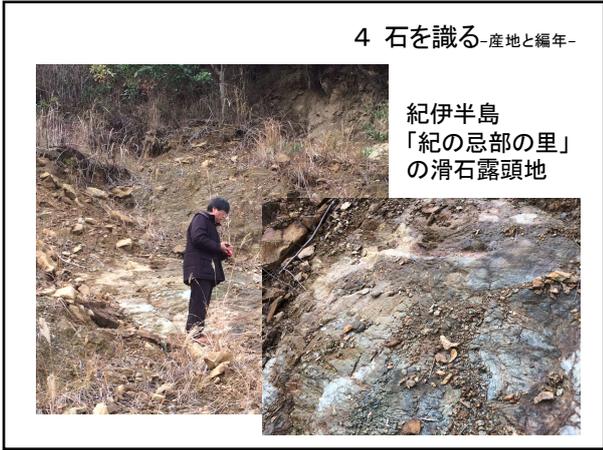
22



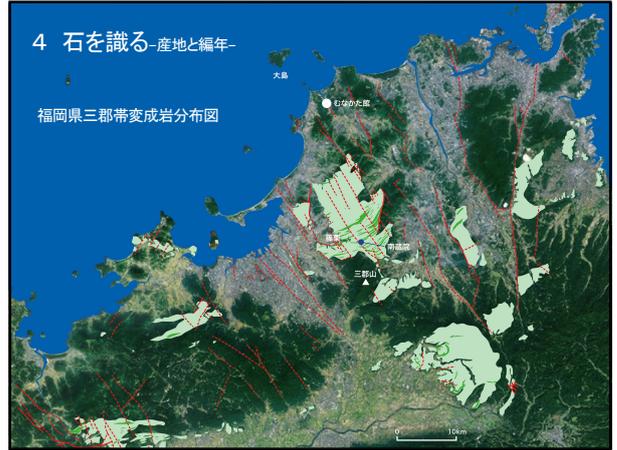
23



24



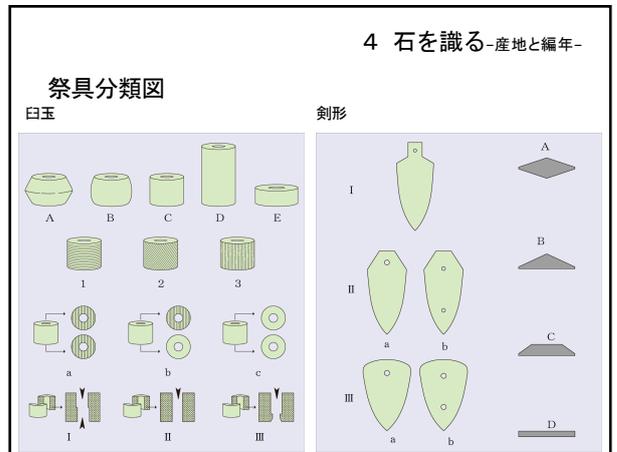
25



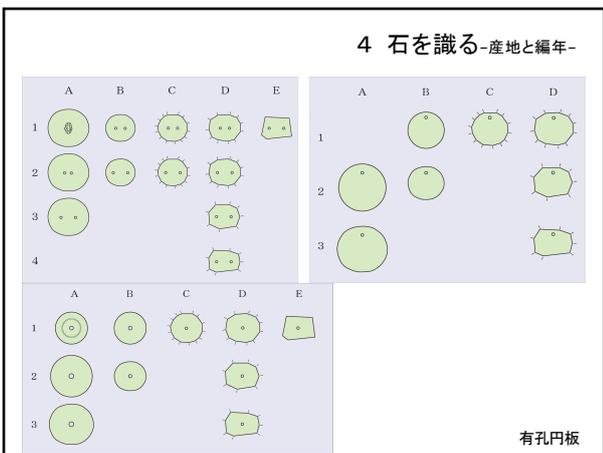
26



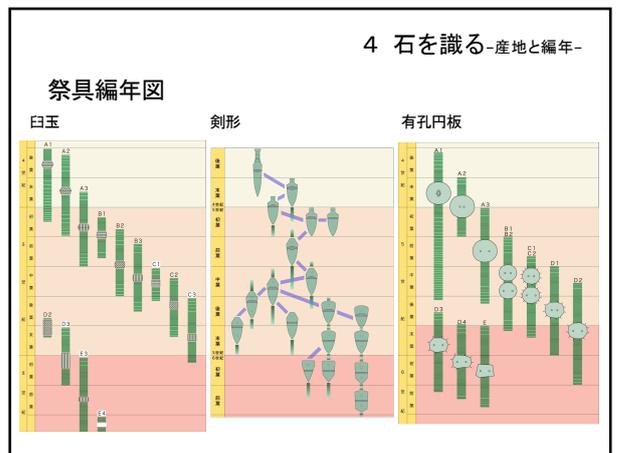
27



28



29



30

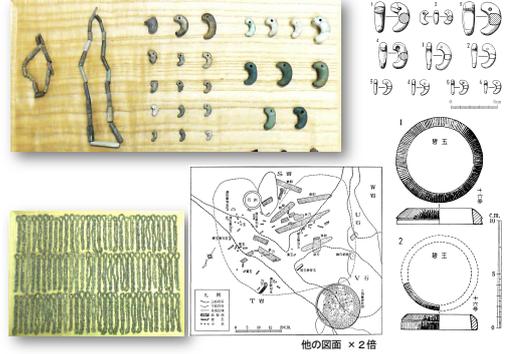
5 宗像沖ノ島の石製品の概要



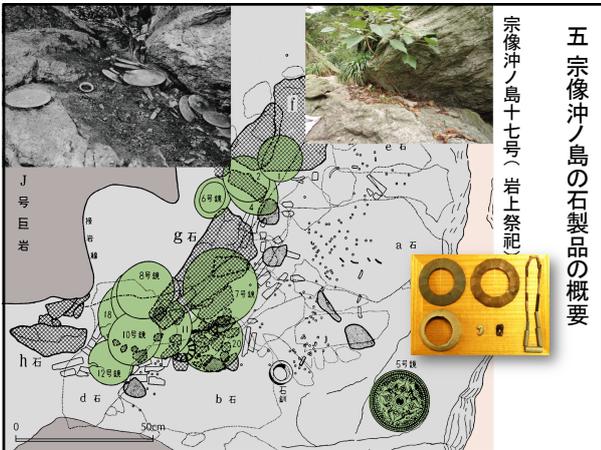
31

5 宗像沖ノ島の石製品の概要

宗像沖ノ島 16号(岩上)



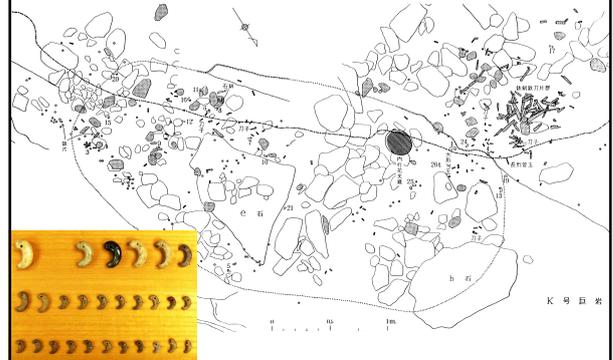
32



33

5 宗像沖ノ島の石製品の概要

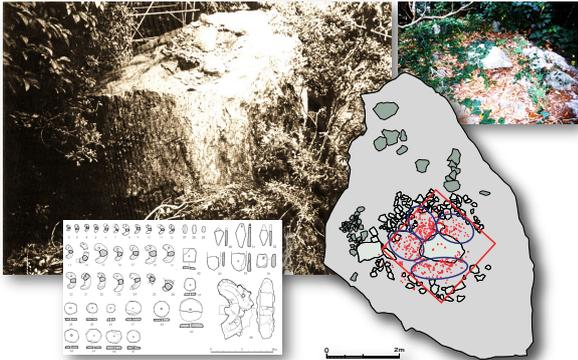
宗像沖ノ島 19号(岩上)



34

5 宗像沖ノ島の石製品の概要

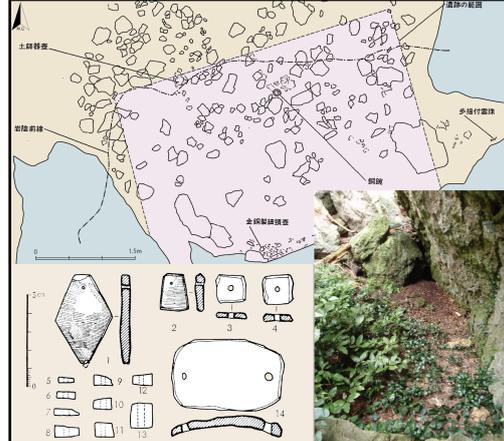
宗像沖ノ島 21号(岩上)



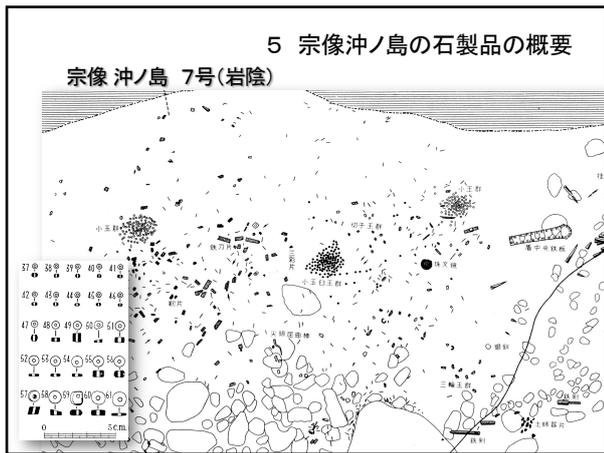
35

5 宗像沖ノ島の石製品の概要

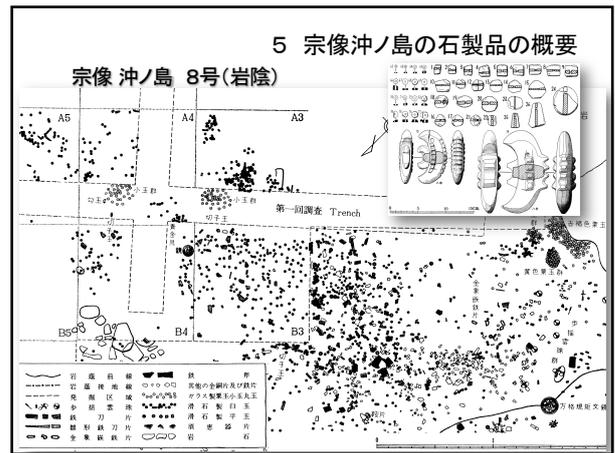
宗像沖ノ島六号(岩陰祭祀)



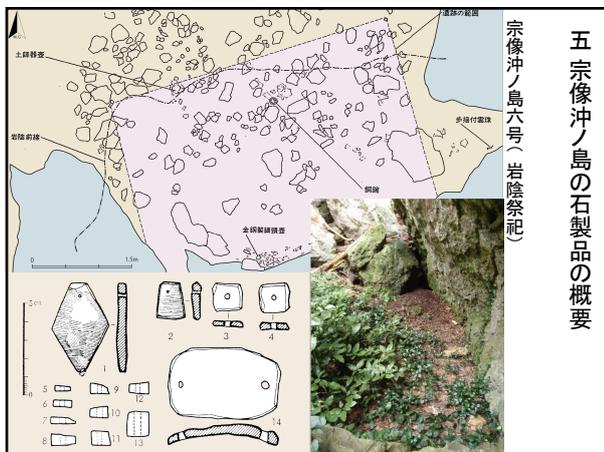
36



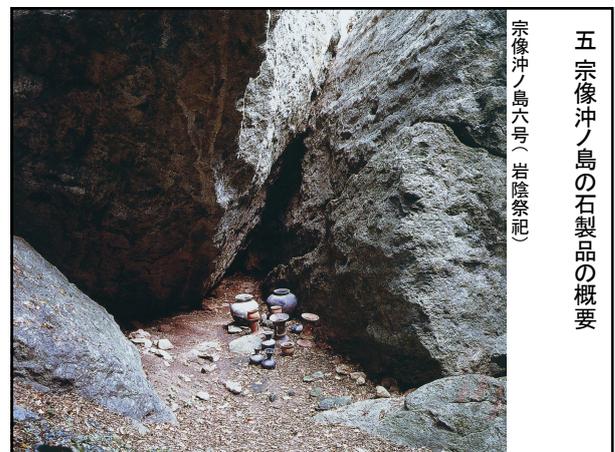
37



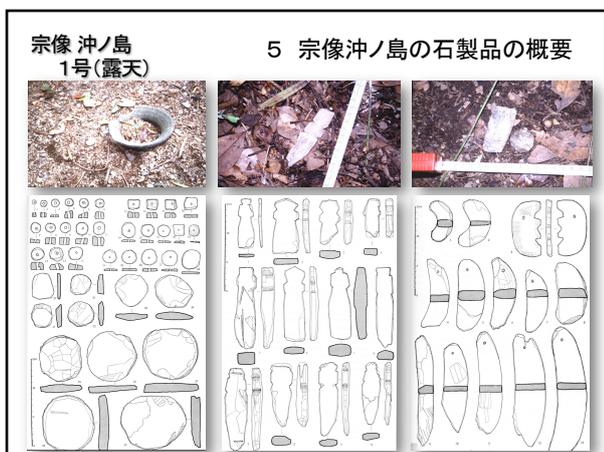
38



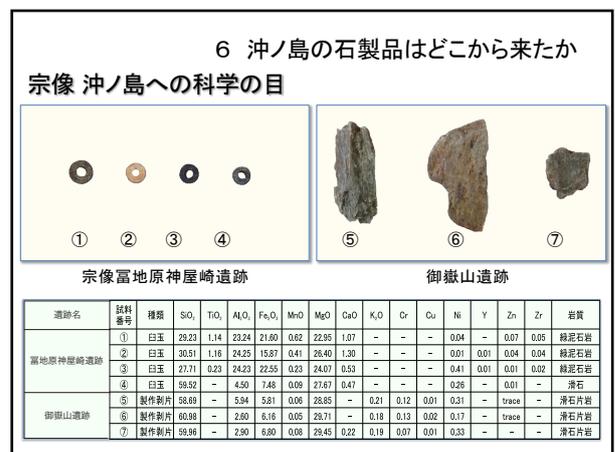
39



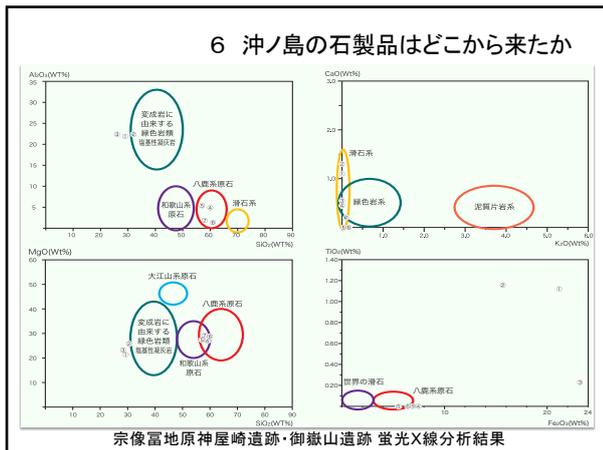
40



41



42



43



44

### 6 沖ノ島の石製品はどこから来たか

#### 石製品産地分析の語るもの

宗像 沖ノ島16・21号遺跡出土臼玉  
 ↑類似↓  
 宗像富地原神屋崎遺跡出土臼玉  
 ↑  
 八鹿系原石 = 畿内産

宗像 沖ノ島21号遺跡以降の石材  
 ↑類似↓  
 御嶽山頂遺跡出土滑石片岩荒割工程品  
 ↑  
 畿内産以外の石材 (篠栗系カ)

45

### 7 韓国竹幕洞遺跡との対比

#### 遺物の特徴

- ① 石製鏡  
5世紀初葉から前葉
- ② 有孔円板  
5世紀前葉  
大型で正円形に近く厚さも均等なもの  
正円形で孔が中央に穿たれているもの  
5世紀中葉  
側面が多角化正円形・正円に近い楕円形化しているもの  
5世紀後葉  
楕円形化し形割段階の剥離痕跡を修正しないもの  
石材は三郡変成帯(三郡一蓮華帯)の関宮に類似  
一部に地元の見岩系  
畿内的な技法である両面穿孔が認められる

46

### 7 韓国竹幕洞遺跡との対比

#### 遺物の特徴

- ③ 剣形  
5世紀前葉後半から中葉  
関の表現の簡略形の台状孔部を持ち片面鑄の稜線が明確  
5世紀中葉  
台状表現が丸みを帯び、鑄が不明瞭化で形割剥離を残す  
5世紀後葉から末葉  
鑄表現がなくなり平坦化
- ④ 勾玉形  
5世紀前葉  
逆C字状を意識し、腹部や背部の整形が丁寧なもの  
5世紀中葉後半から後葉  
コ字状の瑪瑙勾玉に近い形状や作りが雑となるもの
- ⑤ 短甲形  
5世紀中葉  
作りは荒く綴じ合わせ表現を彫っていない後出する要素

47

### 7 韓国竹幕洞遺跡との対比

#### 遺物の特徴

- ⑥ 鉄斧形  
5世紀中葉
- ⑦ 刀子形  
5世紀前葉  
5世紀中葉から後葉

#### 3時期を中心とする遺物構成

- ① 5世紀初葉から前葉
- ② 5世紀中葉
- ③ 5世紀後葉前半

48

## 7 韓国竹幕洞遺跡との対比

### 大韓民国扶安竹幕洞遺跡

- ① 5世紀初葉から前葉
- ② 5世紀中葉
- ③ 5世紀後葉前半

#### 遺物

鏡形・有孔円板・剣形・短甲形・鎌形・鉄斧形・鉄斧形・

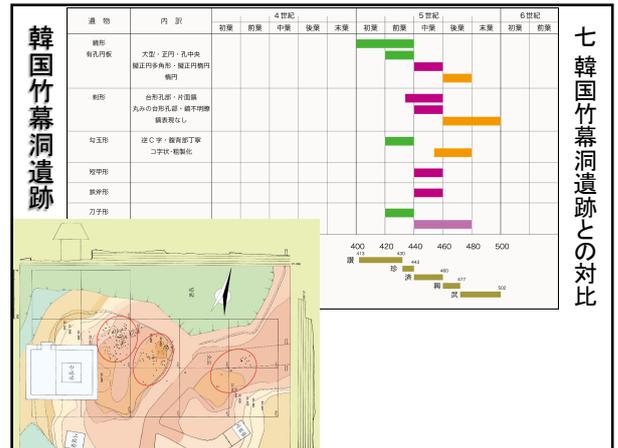
刀子形・勾玉形・白玉

#### 石材 畿内系 技術畿内系

- ① 讚期=沖ノ島にない精製品
- ② 濟期=大量の勾玉形・剣形・有孔円板 東国系
- ③ 武期=有孔円板・剣形・少量の勾玉 集落的構成

寄港地における祝の安全祈願的内容

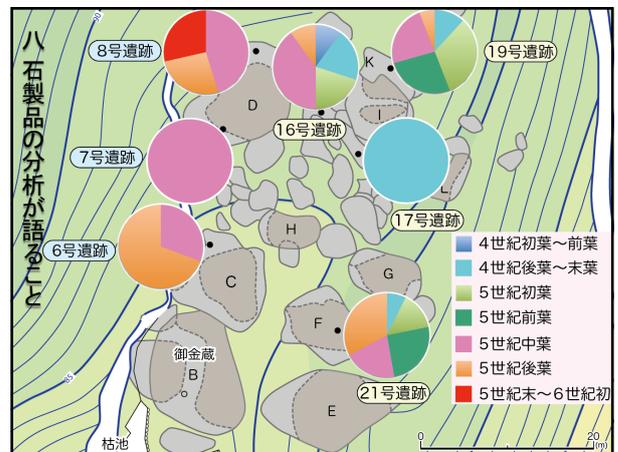
49



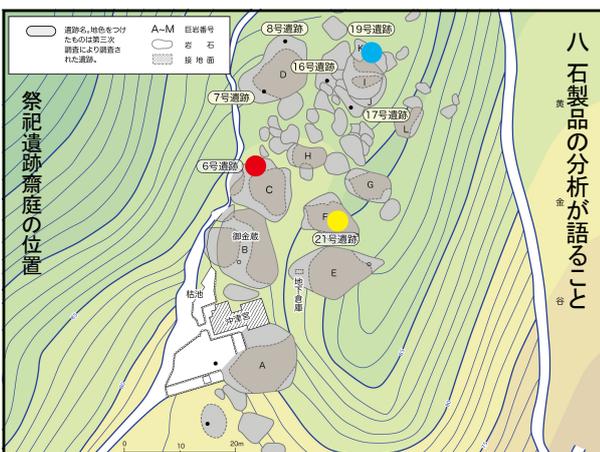
50



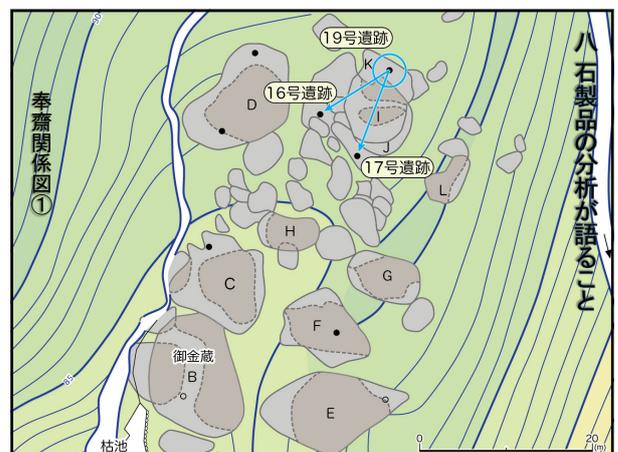
51



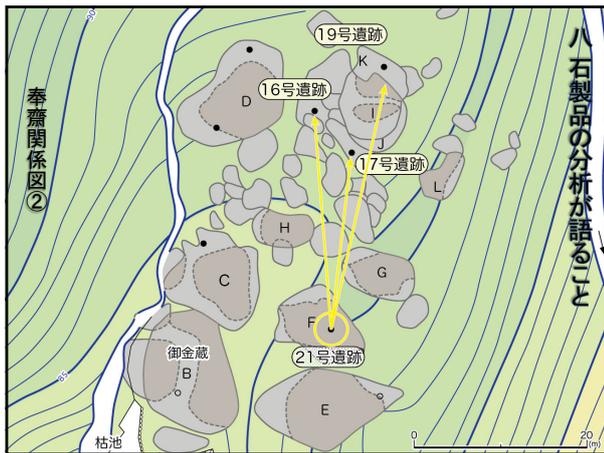
52



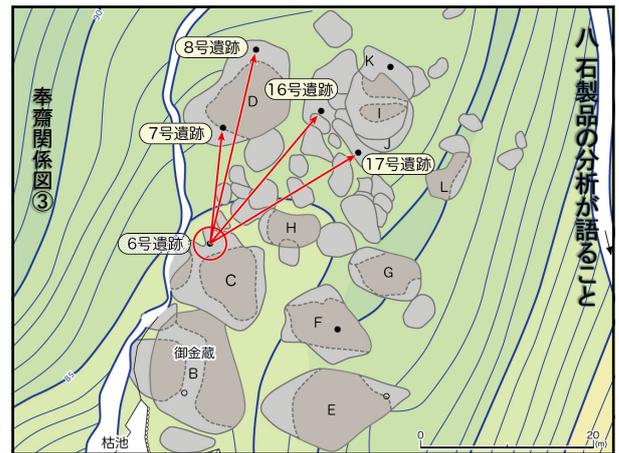
53



54



55



56

9 石製祭具からの発展

**倭の五王の記録**

倭王 讚 413・421・425・430年 宋に朝貢  
 倭王 珍 438年 宋に朝貢  
 倭王 済 443・451・460年 宋に朝貢  
 倭王 興 462年 宋に朝貢  
 倭王 武 477・478年 宋に朝貢  
 479年 南齊に朝貢  
 502年 梁国に朝貢

讚=5世紀初葉から前葉前半=仁徳・応神・履中説  
 珍=5世紀前葉後半=反正・仁徳説  
 済=5世紀中葉=允恭説  
 興=5世紀中葉後半=安康説  
 武=5世紀後葉から末葉=雄略説

57

9 石製祭具からの発展

「讚」期=畿内から奉納品・祭具共に直接搬入  
 19・21号で齋行  
 16・17・19号に奉納  
 「珍」期=讚と同様 19号奉納は無？  
 「済」期=畿内から奉納品搬入 祭具は地元調達  
 19・21・6号で齋行  
 16・17・19・6・7・8号に奉納  
 「興」期=済を踏襲  
 19・21・6号で齋行  
 16・19・6・8・23号に奉納  
 「武」期=困難な祭場を放棄  
 6号で齋行  
 8・23号に奉納

58

9 石製祭具からの発展

宗像 沖ノ島は、一遺跡一回性の遺跡群ではなく、祭場と奉納所の遺構で構成される祭祀遺跡

「讚」期=倭王所持品の奉納・祭具持参の勅使参向  
 「齊」期=倭王所持品の奉納・勅使参列  
 地元氏族の祭祀 宗像君(水沼君)祭祀権確立  
 「武」期=地元氏族による祭祀の代行

寄港地拠点祭祀ではなく、勅祭的な聖地祭祀  
 船舶航行の守護神「道主貴」

59

ご静聴有難う御座居ます。令和の御代を言祝ぎ、皆様の弥栄を御祈念申し上げます。

60